

一般社団法人 かねでんち
事業の実施状況（活動の様子）



おにぎりと豚汁を毎回提供しています。
子どもたちは、自分のおにぎりを食事をつくるスタッフの皆さんと一緒に作りながら、交流をはかっています。



中学生や高校生が自由に利用しています。ボランティアとしてお願いしているわけではありませんが、自然と小学生と触れ合い、一緒に宿題を見守ってくれたり、工作などを一緒に楽しんだりしています。



障がいのある人と小学生や未就学児が、遊びながら時間を共有する姿は、微笑ましい空間を作り出しています。共生社会の一場面であると感じています。
かねでんちは、そのような場づくりをしています。



開所日に、何気なく集まった小学生、高校生、大人やなどが、一緒の空間を共有しながら、大人とおたがい様の関係で、対話をしています。「支える側」「支えられ側」という構図はなく、双方に場を共有しながら学ぶことや学校や家庭では得られない時間を楽しんでいます。



地域の方が作った複数の種類のジャガイモを、ランチに来られる方に販売するために、食事担当のスタッフと一緒に準備している光景です。袋の入れ方、仕分け、値段をいくりにするかなど、子どもたちが主体的に動いています。



公民館で着物のリメイクや編み物をしている方々の団体からいただいた端切れと、木工会社の方からいただいた廃材を組み合わせて工作しています。新しいものを買うのではなく、不要と思われる物を循環させ活かしていくこと。かんでんちは、そのような取組も視野に入れて体験の場、環境をつくっています。



かんでんちの建物内に洋裁を教室があり、子どもや障がいのある方がミシン体験をしている光景です。一人ひとり丁寧にに関わり、自分のものをつくるサポートをしています。



夕涼み会イベント

地域の方との交流をしました。
富里プレーパークの方とコラボで、約80名ほどの方がお見えになり、多世代が交わる光景は、圧巻でした。



スーパーボールすくい、忍者屋敷なども、当日子どもたちやご家族が自主的に運営する側に回ってくれるなど、自ら行動をしていました。

